

E 研究コース群

概要

このコース群は、一流の専門家を講師とし、争訟、審判決例、英文契約、英文明細書の校閲を受講生自ら課題に取り組む講義形式で行われます。Eコースは最高水準のコースで、Cコース群（中級）修了者またはそれに準ずる実力を有する方が、より高度な実力を養成するのに最適です。尚、本コース群では、グループに分かれて演習を行います。

ご参考

下記コースの内容を一新し、生まれ変わります！

改編

E01 特・実判決例の研究（模擬裁判形式）

改編

E08 わかる！英文明細書校閲のコツ

集合型研修
東京開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会

募集定員：24名

E01

特・実判決例の研究 (模擬裁判形式)



初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

特許係争に関する判例を題材として、模擬裁判形式により研究を進めるコースです。受講者がグループに分かれ、交代で原告、被告、裁判官役を担当し、講師が選定した判例を題材として模擬裁判を行います。従って、事前にグループごとに自主研修を行い、判例にこだわらない新しい主張を探し出し、争点を整理して訴状、答弁書などを作成する必要があります。

模擬裁判とその後の講師による講評、解説、質疑応答を通して特許明細書の読み方や技術的範囲の解釈が深まり、また特許権侵害訴訟における攻撃、防御、判断の方法を体験を通じて学ぶことができます。併せて、模擬裁判の対応のための打合せ、議論などを通じて、業種も多様であり、知財部の事情も異なる会員企業からの受講者と親交を深め、その考え方、知識、経験などを交換する場ともなり、今後の知財活動に向けての刺激ともなります。

第1回目は講師がオリエンテーションとして訴訟手続について講義をし、第2回目以降は受講者がグループごとに知恵を結集して攻撃防御を尽くしていくこととなります。特許権侵害訴訟が大きくクローズアップされている現代にふさわしいコースです。

本年より模擬裁判の題材を4件として、短期に効率的に研修を行うように改編しました。より受講しやすい研修となりますので受講をお勧めします。

開催日		講義科目	講師
6/14(火)	午後	オリエンテーション、事例選定	川田法律特許事務所 弁護士 川田 篤 氏
7/19(火)	午後	Aグループ原告の模擬裁判	アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士 早田 尚貴 氏
9/1(木)	午後	Bグループ原告の模擬裁判	LTE法律事務所 弁護士 橋口 尚幸 氏
9/28(水)	午後	Cグループ原告の模擬裁判	川田法律特許事務所 弁護士 川田 篤 氏
10/27(木)	午後	Dグループ原告の模擬裁判	アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士 早田 尚貴 氏

申込みコード：E01-T1

集合型研修
大阪開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会 関西事務所

募集定員：20名

E01

特・実判決例の研究 (模擬裁判形式)



初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

このコースは、特許・実用新案に関連する実務経験者が、さらに高度な専門知識、および最近の判決動向に対応する考え方等を習得することを目的とします。

このコースの受講者は、3つのチームに分れ、特許・実用新案に関する審決取消訴訟または侵害訴訟など最近の判決例をチーム毎に自ら選定し、自主的に調査・研究を行いながらその判決における争点、問題点など法的解釈の論点を整理し、当事者の取るべき論法等を自主研修の中で導き出す全員参加型研究コースです。自主研修は一つのチームが議長団となり、他のチームが原告と被告を担当し、それぞれの立場で活発な論争を展開します。自主研修の後、講師による講評、判例解説および質疑応答を受けていただきます。従って、前記日程の他にチーム毎の事前検討を行う必要があります。

今回、検討する判例を3件とし、短期、集中的に効率よく研修を行うように改編しました。より受講しやすい研修となりますので受講をお薦めします。

開催日		講義科目	講師
6/3(金)	午前	ガイダンス	講師未定
	午後	オリエンテーション	—————
7/13(水)	午後	自主研修 (Aテーマ)	—————
8/2(火)	午前	Aテーマ講評	弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士 井上 裕史 氏
	午後	自主研修 (Bテーマ)	—————
9/6(火)	午前	Bテーマ講評	アスカ法律事務所 弁護士 岩谷 敏昭 氏
	午後	自主研修 (Cテーマ)	—————
10/13(木)	午前	Cテーマ講評	小池綜合法律事務所 弁護士 小池 眞一 氏

申込みコード：E01-K1

集合型研修
東京開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会

募集定員：24名

E05

英文契約における交渉と ドラフティング

初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

近年、ビジネスのグローバル化により国際企業間の提携が増加する傾向にあります。このような国際提携には契約締結が付きものであり、これに携わる実務者にとって、契約書ドラフティングに関する実務スキルを高めることや、相手企業との契約交渉が、ますます重要になってきています。

本研修は、①英文契約書のドラフティング実務に活かせる知識と実務スキルを習得して頂く事、②契約交渉の実践的なポイントを習得して頂く事、を目的とするもので、秘密保持契約、ライセンス契約、共同研究開発契約を主な題材として取り上げます。①契約ドラフティングでは、契約書の類型や実務ポイントの解説に加え、演習を通じて条文の意義、構成、ドラフティングのキーポイントを解説します。②契約交渉では、交渉の進め方の座学の後、具体的な模擬交渉を行い、実践ポイントを解説します。

本研修により、国内契約にも通ずる知識を学ぶことができますので、国内外の契約に直接または間接的に携わっておられる方々にお薦めいたします。

開催日		講義科目	講師
7/1(金)	午前	ガイダンス・英文秘密保持契約のドラフティング	弁護士法人 イノベンティア 弁護士 飯島 歩 氏 生沼国際法律特許事務所 弁護士 生沼 寿彦 氏
	午後	英文秘密保持契約のドラフティング	
9/13(火)	午前	英文ライセンス契約のドラフティング	
	午後	英文ライセンス契約のドラフティング	
12/8(木)	午前	英文共同研究開発契約のドラフティング	
	午後	英文共同研究開発契約のドラフティング	
2/2(木)	午前	ライセンス契約交渉の実践ポイント	
	午後	ライセンス契約交渉の実践ポイント	

申込みコード：E05-T1

1～3回目は、全体ガイダンスに続き、秘密保持契約、契約ライセンス契約、共同研究開発、のそれぞれの契約について、背景、契約書の類型及び実務ポイントなどの講師による解説の後、グループ演習（問題条文の確認と修正等）と講師による解説等があります。

最終の4回目は、契約の中でも特にライセンス契約を題材に、契約交渉の進め方や交渉ポイントの説明などの講義の後、具体的な事例を用いたグループによる模擬交渉を行って頂き、最後に講師からの講評と解説を頂きます。

集合型研修
大阪開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会 関西事務所

募集定員：20名

E05

英文契約における交渉と ドラフティング

初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

近年、ビジネスのグローバル化により国際企業間の提携が増加する傾向にあります。このような国際提携には契約締結が付きものであり、これに携わる実務者にとって、契約書ドラフティングに関する実務スキルを高めることや、相手企業との契約交渉が、ますます重要になってきています。

本研修は、①英文契約書のドラフティング実務に活かせる知識と実務スキルを習得して頂く事、②契約交渉の実践的なポイントを習得して頂く事、を目的とするもので、秘密保持契約、ライセンス契約、共同研究開発契約を主な題材として取り上げます。①契約ドラフティングでは、契約書の類型や実務ポイントの解説に加え、演習を通じて条文の意義、構成、ドラフティングのキーポイントを解説します。②契約交渉では、交渉の進め方の座学の後、具体的な模擬交渉を行い、実践ポイントを解説します。

本研修により、国内契約にも通ずる知識を学ぶことができますので、国内外の契約に直接または間接的に携わっておられる方々にお薦めいたします。

開催日		講義科目	講師
6/7(火)	午前	ガイダンス	弁護士法人 イノベンティア 弁護士 飯島 歩 氏
	午後	英文秘密保持契約のドラフティング	
8/30(火)	午前	英文ライセンス契約のドラフティング	
	午後	英文ライセンス契約のドラフティング	
11/28(月)	午前	英文共同研究開発契約のドラフティング	
	午後	英文共同研究開発契約のドラフティング	
2/7(火)	午前	ライセンス契約交渉の実践ポイント	
	午後	ライセンス契約交渉の実践ポイント	

申込みコード：E05-K1

1～3回目は、全体ガイダンスに続き、秘密保持契約、契約ライセンス契約、共同研究開発、のそれぞれの契約について、背景、契約書の類型及び実務ポイントなどの講師による解説の後、グループ演習（問題条文の確認と修正等）と講師による解説等があります。

最終の4回目は、契約の中でも特にライセンス契約を題材に、契約交渉の進め方や交渉ポイントの説明などの講義の後、具体的な事例を用いたグループによる模擬交渉を行って頂き、最後に講師からの講評と解説を頂きます。

集合型研修
東京開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会

募集定員：24名

E07

特許事例の研究（討論形式）

初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

特許法その他の知的財産法の理解には、実際の判例を検討することが欠かせません。しかし、日常的な知的財産法の勉強においては、教科書に紹介されている判例や、雑誌等に掲載されている判例解説を読むことはあっても、実際の判決文そのものをきちんと読むことは少ないと思われます。

本コースでは、特許法を中心とする知的財産法の重要論点を含む実際の判決文を題材として、当事者がどのような観点から主張を行っているのか、何が問題となるのか、裁判所がどのような考慮の下で結論を出しているか等について、講師と受講者とを含めた討論を行い、判例の理解をより深いものにするとともに、訴訟の経過を振り返ることにより、実際の訴訟においてどのような攻撃防御がなされ、それがどのような影響を持つかなど、理解することができます。

開催日		講義科目	講師
6/13(月)	午後	・ 知財訴訟の概要と次回課題配布	窪田法律事務所 弁護士 中岡 起代子 氏
7/21(木)	午後		
9/15(木)	午後		
10/11(火)	午後	・ 課題のグループ討議	
11/8(火)	午後	・ グループ発表	
12/14(水)	午後	・ 全体討議	
1/12(木)	午後	・ 次回課題配布	
2/17(金)	午後		

申込みコード：E07-T1

1 回目は、判例研究をするにあたってのガイダンスとして、知財訴訟がどのように進められているか、また当事者はどのような点を中心に論理を組み立てているか、といった点について講師から講義形式の解説があります。

2 回目以降は、講師が選んだ判決文を事前に各自検討したうえで、受講者をグループに分け、各グループ毎の討議、さらには講師を交えた全体討議を行います。受講者は、このような討議において積極的に発言し、質問を発するなどして、問題となる論点についてより深い理解をすることが可能となります。

集合型研修

東京開催

研修会場：一般社団法人日本知的財産協会関西事務所

募集定員：24名

E08

わかる！
英文明細書校閲のコツ

改編

初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから！

※日本弁理士会継続研修対象コース

概要

今年度より短期間の研修とし、より効率的に学べるように改編しました。

※講義、演習は第2回目から化学、電気・ソフトウェア、機械の各コースごとに分かれ、別教室での受講となります。

主要外国特許に関する知識を習得された方を対象に近年ニーズが高まっている英文明細書の校閲を正確かつ効率的に行う実力を養うことを目標としたコースです。和文明細書の翻訳をどのようにチェック・修正すれば良いかを、体系的且つ事例を通じて学んで頂きます。その上で演習問題に取り組んで頂き、英文明細書の校閲の実務スキルをつけて頂きます。

特に日本語で書かれた技術文章の適切な翻訳、特許明細書特有の言い回しや注意点、オフィスアクション時の対応に有用な翻訳等にフォーカスして研修を行います。

研修はまず、英文明細書の校閲に関する講義を受けていただきます。その後、演習で各自が課題に取り組み、グループディスカッションと発表、そして講師による講評があります。講義と演習を繰り返す事で翻訳文の校閲のポイントを無理なく学んでいただきます。

課題に取り組み、議論を通じて学べる大変有意義な研修です。

※第1～4回の各回で宿題が出され、翌回の前半に宿題回答についてグループ討議・発表を行います。

開催日		講義科目	講師
6/21(火)	午後	1.ガイダンス及び英文明細書校閲の基礎知識	特許業務法人 志賀国際特許事務所 弁理士 清水 雄一郎 氏
7/14(木)	午後	2.英文明細書のチェックポイントと校閲演習 (その1)	[電気] 弁理士 古都 智 氏 萩原 昌明 氏
8/25(木)	午後	3.英文明細書のチェックポイントと校閲演習 (その2)	[機械] 弁理士 橋本 宏之 氏 児玉 恩 氏
9/8(木)	午後	4.英文明細書のチェックポイントと校閲演習 (その3)	[化学] 弁理士 宮本 龍 氏
10/14(金)	午後	5.英文明細書校閲のまとめ	弁理士 内田 洋平 氏

申込みコード：E08-T1

1. ガイダンス及び英文明細書校閲の基礎知識

「英文明細書校閲の基礎知識」についての講義と各グループにて実施していただく演習（宿題）の説明を行う。

2. 英文明細書のチェックポイントと校閲演習 グループ演習Ⅰ

グループ分けを行い、各グループにて演習用の和文明細書から分担して英文明細書を作成する。
講師は補講およびグループ演習に関する講義を行う。

3. 英文明細書のチェックポイントと校閲演習 グループ演習Ⅱ

各グループごとに演習の報告を行い、講師は解説および補講と次回課題の説明を行い、グループワークを実施する。
(進め方はグループによって異なる)

4. 英文明細書のチェックポイントと校閲演習 グループ演習Ⅲ

各グループごとに演習の報告を行い、講師は解説および補講と次回課題の説明を行い、グループワークを実施する。
(進め方はグループによって異なる)

5. 英文明細書校閲のまとめ

課題の講評および解説の後、講師より総括を行う。

集合型研修

大阪開催

E08

わかる！英文明細書校閲のコツ

本コースは2022年度の講義は休講とし、2023年度に開催する予定です。

集合型研修 東京開催	研修会場：飯田橋レインボービル	募集定員：24名
E15	交渉学（極み）	初回開催日の 2週間前まで申込可能です。 お申込みはこちらから！

概要

本コースは、会社や組織そして事業部門などを先導するリーダーにとって必須となる交渉力の強化を目指します。

この研修では、ビジネスリーダーや、組織でリーダーシップを発揮することを求められる人材に必要な、困難な場面でのしたたかな対話・交渉力について学びます。たとえば、複雑な利害関係者が錯綜するような交渉場面において、①論理的かつ合理的に自社の利益を最大化するための交渉手法、②交渉における適切な説得技法（レトリック）の活用及び交渉相手による詭弁への対処法、③説得に必要な交渉シナリオの策定方法、④交渉において避けて通れない意思決定（決断）のマネジメントの手法、についてディスカッション、模擬交渉演習を通じて体験的に学習します。

座学での理解に止まらず、体験学習によって学習内容を体感し、より深く理解することができるというのがこの研修の特徴で、社内外で「対話力」を駆使し、リーダーシップを発揮できる人材を育成するための「協働型リーダーシップ研修」です。また、演習の中には「知財」が関連するM&A、事業提携の事例を取り入れ、ウェブ会議を用いてグループディスカッション（交渉）していただきます。経営者、知財責任者、部門長などリーダーとしての対話力、対外的な交渉・折衝能力を磨きたい方は奮ってご参加ください。

開催日		講義科目	講師
2/21(火)	午後	1.対話による協働型リーダーシップ研修	東京富士大学 教授 隅田 浩司 氏
	午後	対話による協働型リーダーシップ研修	

申込みコード：E15-T1

1. 対話による協働型リーダーシップ研修

1・交渉力を支える7つの原則・説得の技術・コンフリクト・マネジメント

午後のロールプレイに活かせるよう、他の会社等と交渉を行う際に注意すべき点や交渉時の原則についての解説を行います。また、契約者双方における対立を踏まえ、対立してる双方にwin-winの効果をもたらすことが出来るための考え方や技術についても解説を行います。

2. 【演習Ⅰ】グループディスカッション

3. 【演習Ⅱ】グループディスカッション（知財が関係する事例）

午前中に受講した内容を実践する場として、交渉事例をもとに、契約者双方に分かれて模擬交渉を行います。受講生に実際の交渉事例に基づいた事例を示した資料を配布し、契約者ごとに参加者同士でグループディスカッションを行い、どのように交渉を進めていくかを討議したうえで、契約相手先のグループとロールプレイを行います。グループディスカッション、ロールプレイを通じて各グループごとの交渉内容を講師が順次確認し、後ほど講師より解説を行います。

なお、模擬交渉の題材は、知財が関係するものとししないものの2題を予定しています。

他の受講生とのグループディスカッションを通じ、新たな考え方等を得ることができます。